

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成24年3月(2012年)No.555

## 今年の一泊撮影会は近江八幡市安土町 沙沙貴神社の火祭り

毎年恒例のOMC1泊撮影会は、今年は4月7日(土)8日(日)の両日に亘って、滋賀県近江八幡市安土町にある沙沙貴神社の火祭りとなりました。昨年の白浜撮影会は雨にたたられました、今年はお天気に恵まれます。企画は井上勝彦世話役が中心となってまとめて頂き、まことにご苦労さまでした。2月例会で申込みを受付けられましたが、例会に欠席者の中で撮影会参加ご希望の方は至急、井上世話役にご連絡してください(TEL078-843-4549)。参加費は宿泊費と宴会費を含めて15,000円です。3月例会日までに会計まで納めてください。

また、大松明最終組立ての様子は1週間前の4月1日(日)に常楽寺会館にて撮影可能とのこと。火祭りそのものだけでなく、その準備状況を加えた作品構成にすれば、奥行きのある作品が出来ると思います。ロケハンに4月1日も行ってみたら如何でしょうか。

撮影会当日は、大阪駅8:00発快速1号車に集合乗車、安土駅9:21着下車後は原則として各自自由撮影となります。

初日宿泊場所は、JR1つ大阪駅よりの近江八幡駅下車すぐ近くの、ホテル近江八幡インになります。くわしくは井上氏が準備された資料をご覧ください。多くの方の参加を期待しています。

撮影会作品のコンテストは、6月例会日の第4土曜の午後に一応会場を予約しておきます。優秀作品の中から1本秋の公開映写会で上映されます。

■予告：第30回日本を縦断する映像発表会、大阪開催日7月1日12時～  
 ■玉井勻氏が健康上の理由で退会届：夜の外出は控えたい由、お大事に。

### 3月例会のお知らせ

3月例会は第4土曜日24日午後6時より、いつものJR難波駅上4階難波市民学習センターにて開催します。もう日増しに暖かくなっている頃だと思います。楽しい月一度の例会にぜひお越しください。撮影会に参加される方は参加費をお忘れなく。作品の方もどうぞお持ちください。



## ■第46回東京アマチュア映像祭

ビデオコンテスト作品募集始っています  
今年も上記全国コンテストの募集が6月末  
締切りで始まっています。実力だめしで出  
品してみませんか。

・作品送り先及び応募用紙の請求  
〒272-0021 千葉県市川市八幡 3-28-19  
ユニテプラス 24-A 鹿島隆雄 内  
日本アマチュア映像作家連盟  
TEL & FAX 047-322-3927

・作品長さ 10分以内 テーマ自由  
・参加料 2,000円 ・6月末日必着

## 2月例会のレポート

2月例会は25日18時より例会場にて開  
催。司会は上田氏、書記、前田氏、機材、  
井上、河合、江村の各氏、受付兼照明係は、  
華岡、宮崎の両氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、  
上総、紙本、河合、蟹江、黒田、合原、進  
藤、関、高瀬、田中、鉄具、華岡、前田、  
宮井、森下、山本、吉岡、22氏と出品作  
品16本でした。

■上映作品(今月の講評は前田世話役です)

### 1. 下津井を訪ねて(BD)

吉岡貞夫さん 9分16秒

岡山県の倉敷市下津井町へ一泊二日で行  
かれた作品。本州四国連絡橋の児島・坂出  
ルートのもとにある町です。古くから漁  
港として栄え、東部には名峰 鷲羽山があ  
ります。かつては四国への連絡ルートの一  
つとして、北前舟の寄航する港として栄え  
たそうです。しかし本四連絡橋が出来てか  
らはその面影を残すのみとなっています。  
鷲羽山は低い山ですが、巨大な遊園地が  
出ています。山頂からの眺望は素晴らしく  
瀬戸内が一望に見渡せて素晴らしい眺め  
です。これらの風景と町の資料館にある展  
示物等を3人のナレーションで語るの  
ですが、やはり混乱するので、作者一人のナ  
レーションで統一するほうがいいのではと  
司会者のコメントがありました。しかしし  
つとりと落ち着いたいい紀行作品でした。

### 2. 雪見旅根子岳へ(SD)

有村 博さん 11分48秒

根子岳といえば阿蘇五山の一つの高峰か  
と思いましたが、信州の菅平にも根子岳が  
あったのです。真冬の2207mの高山に  
一歩も歩かずに、バスとリフト、雪上車で  
頂上直下の2000m付近まで登って来られ  
ました。冬にしては天気もよく山頂付近か  
らは、北アルプス、妙高山。戸隠山、志賀  
高原の草津白根山、遠方には尾瀬の山々も、  
近くには浅間山等々有名な山々が見張らせ  
られる素晴らしい眺めです。樹氷のよう  
に見えるのは木が雪に被っているだけで、  
水蒸気が凍って木に付いた蔵王の樹氷と出来  
た過程が違うそうです。ひとつ知識を得ま  
した。乗り物の描写も丁寧に撮られており  
楽しめました。何ともうらやましい豪華な  
旅行を楽しんでこられました。ラストシー  
ンに温泉街の俯瞰映像が出ましたが、その  
前の綺麗な山の風景で終わったほうが印象  
的で良かったのではと思います。

### 3. 紫縁起(SD)

関 剛さん 10分00秒

紫とは何かと思っていたら紫式部にま  
つわる話を石山寺にからめて映像化した意  
欲的な映像作品と観ました。関さんらしい  
独特のあるアップ表現の切り取り、アップカ  
ットの積み重ねと特有の感性で編集し見る  
人に訴えてきます。途中で源氏物語の登場  
人物らしい女性の顔が幾つかカットの中に  
浮かび上がってきますが、かつての強烈な  
関作品と比べると、かなりおとなしい編集  
だと見受けました。紫式部が筆を取った光  
源氏と関わった女達の情念を表現しようと  
した抽象映像でしょうか、作者の個性と感  
性が強く前面に押し出されているので、他  
の人は真似の出来ない作風です。おぼろげ  
ながら意図が判ったような気がしました。

### 4. キリコ 坂を登る(HDV)

河合源七郎さん 7分45秒

このところ能登各地の町のキリコを撮影  
されている作者のキリコ作品ですが、今回  
は能登町小木湊の袖キリコを撮った作品で  
す。キリコは漢字で書くと、切籠と書くそ  
うです。神輿のお供に作られる巨大な御神  
灯で氏子達によって勢い良く担がれて練り  
歩きます。一説によると青森の弘前ねぶた  
の影響を受けたともいわれているようで



す。女性が袖を拡げた形から袖切子といわれていますが、大変大きく立派なつくりと見受けました。この大きな袖キリコが高台にある御船神社へ宮入りするのですが、この最後の坂の一番の急な登りがクライマックスですが、場所が狭く撮影に危険なためでしょうか作者の意図したように厳しい登り坂を苦労して上ってきたという雰囲気を感じられなかったのが惜しまれます。しかし能登の各地のキリコ祭りをふんだんに見せてもらえて楽しめました。

#### 5. 落城物語備前常山城 (HDV)

紙本 勝さん 11分30秒

紙本さんお得意の城跡物語です。今回は岡山県玉野市にある常山城址を訪ねられました。上映前にこれまでの作品より判りやすく作りましたとの説明がありました。備前松山城主三村氏の娘、鶴姫を娶った上野隆徳でしたが、信長との和議に賛成したことが毛利氏に知られ毛利氏の激しい怒りをかい、まず松山城が落城し、続いて、常山城が攻められた。鶴姫は武家に生まれた女の信念を貫き敵の武将に一騎打ちを挑むが女と戦う刃を持たぬと拒否された。鶴姫は城に戻り夫の隆徳の目前でも自害した。侍女たち 34 名も後を追って自害したという勇ましくも誠に悲しい物語が切々と語られます。戦は戦国の世の常とはいえ、誠に悲しい歴史を秘めています。作品的には資料が何も残っていない史実を、現在の風景をバックに切々と語りますが、話が悲壮なだけに共感を呼びます。

しかし難しい題材をよくまとめて作品にされる実力に敬意を表します。日本史の勉強の一つとして観賞しています。

#### 6. 雪の三島池 (BD)

進藤信男さん 8分55秒

滋賀県米原市にある大雪の三島池を一泊二日で撮ってこられた野鳥ものの自然派作品です。大雪の中で湖面が凍りつき、身を寄せ合って生きるカモの仲間達の生きる姿が非常に印象的でした。ここのカモ達へは給餌をしないのか、給餌していてもそのシーンを省かれたのか判りませんが、どうやって餌を採っているのだろうと気になりました。もし少ない水草を必死についばんで

いるシーンが採れていたら、或いは撮影・編集をもっと意識して作られたら丹波篠山の「生きる」というテーマ性が表現されるのではないかと思いました。しかしラストの雪を被ってじっとうづくまるカモたちのシーンは印象的です。短すぎてもっと長く観たかったシーンだと思います。

#### 7. グロースグロックナー (BD)

華岡 汪さん 8分22秒

ほぼ富士山と同じ標高のオーストリアの最高峰の名前だそうで、この山の近くを縦断するツアー作品です。世界でもっとも美しいといわれる高山道路のドライブシーンが延々と続きますが、ツアーでは致し方ありません。しかし 1856 年皇帝フランツ・ヨーゼフが眺めた展望台からの景観が流石に見事です。ヨーロッパの山岳風景は息を呑むように綺麗ですね。日本の山岳風景はやはり敵わないとしか云えません。

#### 8. ロイヤルデルフト博物館 (SD)

井上勝彦さん 8分26秒

オランダの陶器博物館を見学したときの作品です。私達の感覚らすれば、陶器というより磁器といったほうがしっくりする作品が大部分でした。300 年前から中国の青磁を意識して作られた西洋の陶磁器は東洋の陶磁器と違って皿ものが多いのと、その皿に人物が書かれている作品が多いのが印象的で東西の感性の違いを感じました。作者も記念に買い求めたいと思ったそうですが、高価で手が出なかったそうです。観客も少なくどうやってあの広い博物館を維持するのだろうかと気になりました。

#### 9. 炎に挑む (HDV)

前田茂夫(筆者) 7分50秒

昨年 10 月に映写したが丹波篠山ビデオ大賞入賞を機に、まだ見ていない会員もおられるのではと思って再度持参しました。この作品はノンナレですが、5名の審査委員の間で賛否両者に分かれたようで最後は審査委員長の決断で拙作に決めて頂いたそうです。当初からドキュメンタリー風のナレーションはこの作品にはそぐわないと思っていたので、ノンナレにしたのですが、それを認められた結果となりました。



## 10. バルカン2万Kmドライブ (HDV)

山本正夢さん 12分30秒

ドイツからバルカン半島まで往復してまたドイツへ帰ってくるという、凡そ2万Kmにも及ぶという大ドライブ旅行を記録した作品。息子さんと二人で1ヶ月少々で廻って来られたそうです。自動車はドイツで3000ユーロで購入し旅が終われば直ぐ3500ユーロで売ったそうで、売却で利益を上げての快適な旅行を実行する行動力と経済感覚には脱帽のほかありません。この作品では各街の紹介は夫々ほんの数カットでしたが、夫々の街では沢山撮影されているようで、これから各街をテーマにした作品が順次拝見できそうです。それにしても言葉は何かなるようで、凄いな国際人ですね。しかし、これまでの旅行記は息子さん、娘さんとの旅行で、奥さんが登場してこなかったと思います。奥さんと二人だけの旅行記を観たいものです。

## 11. 雨のよさこい (HDV)

江村一郎さん 7分00秒

大雨のよさこい作品は初めて見たと思います。激しい夕立の中で激しい踊りを披露する若者達、観客は屋根の下に避難しても雨に打たれて一心に踊り続ける踊り子達、見ていて気の毒になりましたが、バケツをひっくりかえしたような夕立と激しいよさこい踊りの対比が素晴らしいと思います。一般に雨は撮影者に嫌われますが、大雨とか、大風とか、大吹雪とか激しい気象はそれ自体が映像を引き立てるので筆者も大好きです。これまでのよさこい作品の中で一番迫力に富んだ非常にいい作品でした。

## 12. 十戒の山 シナイ山 (4:3)

上総修一郎さん 9分11秒

作者本人も何年前に作った作品か忘れたと語っていますが、上総さんが元気な頃の作品で、シナイ半島のシナイ山へ登ったときの貴重な記録作品です。モーゼが大勢のイスラエルの民を引き連れてエジプトを脱出し、シナイ山に登って十戒を授けられた史実を語ってストーリーが展開していきます。4:3のDV作品ですが、映像は綺麗で山頂でご来光を拜むシーンは非常に印象的な場面でした。上総さんがお元気な頃、

世界各地をあちらこちらへと訪問したときの作品の一つで素晴らしい紀行作品です。登山にラクダの背に乗って登るのですが、決して楽だ、ではなく揺れすぎて却ってシンドイそうです。苦勞して撮影されたことがよく判る立派な作品です。上総作品の傑作の一つと思います。

## 13. マラソンびと だんじりの街 (HDV)

宮井 健さん 8分00秒

泉州国際市民チャリティーマラソンをCanonのAVCHDカメラG10による作品です。小田和正の歌を全編に流していますが、雰囲気は合っていたと思います。作品はだんじりの街、岸和田を駆け抜ける市民マラソンを走路の反対側の歩道から三脚を使ってじっくりと撮影されたものです。安定感があって落ち着いて観られていいのですが、走るという躍動感に乏しいのが惜しいです。走行側の歩道に立って手持ちで密着映像を撮影したシーンが少しでもあればさらに躍動感と親近感が沸いたであろうと思います。カーネーションの川崎亜紗美のインタビュー音声のだんじりの太鼓の音に邪魔されて聞こえなかったのは残念でした。

## 14. 二月堂竹送り (HDV)

高瀬辰雄さん 12分00秒

二月堂の修二会おたいまつに使われる竹を二月堂に奉納するという行事を撮影されたもの。お水取りといえ、おたいまつばかりに目が行きますが、松明の心材となる竹を何処からどのように調達しているのか考えてもいませんでした。それに見事に応えている作品です。山城の里で若竹を切り出し、小学生も含む里人の手で、二月堂に奉納するという珍しい行事を描いておられます。地元の寺に集められた竹は里人に担がれて二月堂へと向かいますが、ラストの畑の中に行くシーンは情感があっていい情景だと思います。高瀬さんは前の高山杉の作品にしろ、今回の二月堂への竹奉納作品にしろ、珍しいテーマを題材にされる取材力には感服します。

今月は時間超過のため、蟹江利一さんのブタペスト編と鉄具嘉夫さんのママが頑張って！の2本が来月に持ち越されました。